

1 研究主題

《地区研究主題》

「考え、議論する道徳」に向けた授業の在り方

《会場校研究テーマ》

相手の話を共感的に聴き、考えを伝え合う子供の育成

～道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をめざして～

2 研究発表

伊佐市立曾木小学校では、令和7年度から、地区指定研究協力校として、研究・実践に取り組んできました。研究発表では、『自分の問いや見通しをもつための工夫』や『相手の話を共感的に聴き、考えを広げ・深める「学び合い」の工夫』、『これまでの自分を見つめ、これからの生き方につなげる振り返りの工夫』を追究する取組等について紹介がありました。具体的な実践に基づく発表から、研究テーマの実現に向けた取組の成果が十分に伝わってきました。

めざす道徳の授業～心の揺れに着目し、心を見つめる～

- 納得させる授業ではなく、考えを深める授業
- 迷いや葛藤も大切にする授業
- 自分の心と向き合える授業
- 他者の考えに触れながら、自分なりに考える授業
- 『親切って難しい』も大切な学びだと感じる授業
- 子供の実態をもとにした授業
- 道徳的心情、判断力、実践意欲・態度、道徳的实践力
道徳的实践力に至るまで（心が行動につながるまで）のプロセスを大切にする授業
（困っているな→声をかけようかな→勇気をだしてやってみよう→実際に席を譲る）

3 研究授業

(1) 3・4年生 教材名「バスの中で」

有馬里美教諭が、「一步踏み出す勇気を持ち、相手の状況や気持ちを想像し、進んで親切にしようとする道徳的心情や実践意欲を育てる」ことをねらいとして、授業を行いました。子供たちは、『声をかけたいけれど勇気が出ない自分』という弱さに向き合いながら、価値理解を深めていました。

- ・ 「分かっているのに、なぜ迷うのか」を自分事として考える
- ・ 心情メーターを活用して心の動きを可視化
- ・ うなずき・あいづち・比較・質問が自然に生まれる対話
- ・ 「進んで親切にするために大切な心」について多面的・多角的に考える



【3・4年生の授業の様子】

(2) 5・6年生 教材名「心づかいと思いやり」

元田咲教諭が、「見返りや周りからの視線ではなく、素直に相手のためを思う気持ちを、思いやりのある行動に移そうとする道徳的実践意欲を育てる」ことをねらいとして授業を行いました。子供たちは、「自分だったらどうするだろう」という発問を通して、自分自身の経験や思いと重ね合わせながら、価値理解を深めていました。

- ・ 行列の中で声をかけた女性の行動やその姿を見た周りの人たちの気持ちを多面的・多角的に考える
- ・ 「もし自分だったら」を軸に、行動の難しさと価値について考える
- ・ 自分の思いや迷いを表現（心情メーターの活用）
- ・ 互いの考えを共感的に聴き合う対話の場の設定（心の変化を共有する対話）



【5・6年生の授業の様子】

4 分科会

分科会では、3・4年生、5・6年生に分かれ、授業研究・研究協議を行いました。会場校研究テーマを踏まえ、「子供たちは主体的に、自分との関わりの中で『親切、思いやり』について考えているか」「子供たちは相手の話を共感的に聴きながら学び合い、自分の考えを深めているか」という視点から授業を振り返りました。参加者からは、授業の価値や指導の工夫について多くの意見が出され、道徳科の授業の充実につながる学びの深い研究協議となりました。以下は、研修会参加者の感想です。

【3・4年生】

- 心情メーターによる心情の可視化や、車座による児童の積極的な意見交換により、感情が深化する素晴らしい授業を見せていただき、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- 共感的に聞きながら、子供同士で話合いが進められている姿が素晴らしかったです。「確かに！」や「ちょっと似ています」などの言葉が自然と出てくる姿や、「〇〇さんはどう思いますか？」などの発言も素敵でした。子供たちの話合いの時に、先生が焦らずに静かに待つ姿も見習いたいです。
- 子供たちが自分のめあてをもって、授業に臨んでいることに驚きと同時に、学習者主体とはこういうことだなと感じました。自分事として考えること、共感的理解、可視化の工夫等、たくさんの学びがありました。これからの授業に活かしていけるように、研修を積んでいきたいです。

【5・6年生】

- 子供たちが対話の中で考えを深めていく素晴らしい授業でした。先生が穏やかに見守る中で、子供たちが授業を展開していく姿に感心しました。子供たちから出された意見をどのように整理していけばよいか、価値の押し付けにならないように子供たちを高める手立てなど、考えさせられる良い機会となりました。
- 「めざす道徳の授業」をしっかりと押さえた授業づくりがなされており、子供の心の揺れがしっかり見えました。押し付けではなく、実践につながるまでのプロセスを大事にした子供主体の授業づくりがなされていました。
- 子供たちが自分たちで問いをもち、教師の声かけもほとんど必要とせず、自分たちで授業を進めていく姿が素晴らしかったです。自分事として捉え、他者の意見を聴きながら考えを深められるように、自校でも今日の学びを活かしていきたいです。